

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|----------------------|------------|
| 事業所番号 | 3690200013 | |
| 法人名 | 株式会社 そよかぜ | |
| 事業所名 | グループホームそよかぜ | |
| 所在地 | 徳島県鳴門市瀬戸町明神字上本城77番地2 | |
| 自己評価作成日 | 令和5年2月10日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 |
| 訪問調査日 | 令和5年3月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんな仲良くいきいき生活をモットーに職員とご入居者様といった関係でなく、第二の我が家、家族といったアットホームな雰囲気を大切にしながら、日常生活においては個々の生活ペースを尊重している。また、コロナ禍において他の施設では面会制限等で全く会うことができず、ご入居者様の状態把握ができないなどの問題が生じていますが、グループホームそよかぜでは少しでもオープンに不透明性がないように、2階のベランダ窓越しから面会が出来るように工夫し、面会に来られたご家族様に日々の生活や心身状態について懇切丁寧に説明しています。更に、ご入居者様一人一人に担当職員を取り決め月に1回はご入居者様の生活状況を記したメッセージカードなどをご家族様に送付し、少しでも安心と信頼関係が築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海に面した建物の2階にあり、海を一望することができる。“みんななかよくいきいき生活”という理念を掲げ、温かく家庭的な雰囲気づくりに努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下において、食事やレクリエーション等、室内での楽しみを工夫し、気分転換を図っている。食事は、事業所内で利用者職員が、準備から片づけまで一緒に行っている。季節に応じた行事食や外出気分を味わうことができる行楽弁当、おやつづくり等、食の楽しみを工夫している。日中は、玄関を解錠し、利用者の外に出たくなる気持ちや場面等を理解し、見守ることで、安心・安全で閉塞感のない暮らしを支援している。医療機関と連携し、定期受診や往診の体制を整備している。日ごろの本人の様子や受診状況を家族等と共有することで、安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝、朝礼時に経営理念や事業所理念などを唱和し志を確認する。申し送り時にその旨を報告・連絡・相談においても共有し合うことで実践に繋げている | 事業所は、開設当初からの“みんななかよくいきいき生活”という理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示するとともに、朝礼で唱和することで、共有化を図っている。職員の入職時には、理念について説明し、具体的なケアの実践に繋げている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 令和3年度は地域の公園の草刈りや清掃活動に参加したが、鳴門市内の施設や病院でコロナウイルス感染によるクラスターが発生した為、地域との交流活動は自粛している。 | 事業所は、感染症(コロナ等)の終息後に地域の民生委員のサロンに参加することを検討しているが、現在は、地域の状況等を鑑みて、交流を自粛している。 | 今後は、感染症の流行下においても、地域と交流を途絶えさせないために、創意工夫することが望まれる。新たな交流方法を模索することで、地域とつながりつつ暮らし続けることができるよう期待したい。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議などにおいて地域の人々やご家族様代表に認知症の方の特性やあり方支援方法を書面会議にて資料を添付し送付している。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議(書面会議)で委員のメンバーからの頂いたコメント内容を職員に報告し、実践するようにしている。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所の状況や行事、研修等についてまとめた資料を各委員に送付し、意見や提案を得ている。出された意見等について、職員間で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 特に感染症予防や対策について相談や助言を頂いたり、運営推進会議で報告・相談することで意見や指示を頂いている。 | 管理者は、定期的に市担当窓口を訪問し、事業所の取り組みを伝えている。感染症対策やワクチン接種について、電話でも相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設が2階に位置しており、出るとすぐに急な階段の為、転落等のリスクを伴うが日中は施錠しておらず毎回出入り口付近や徘徊のあるご入居者様の行動にその都度対応している。 | 事業所は、定期的に身体拘束廃止委員会や研修会を開催している。日中は、玄関を解錠し、利用者の様子を見守ることで、自由で安全な暮らしを支援している。随時、支援における拘束に関する疑問については、職員間で話しあったり、市担当職員に相談したりして、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の定義を知ることによって防止に繋がると考えている為、スキルアップ研修を実施している。また、日々の業務の中で言葉使いなど不適切なケアにあたらないか確認しながら業務を遂行している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 不透明なことは積極的に調べ職員間で情報の共有を図り理解した上で活用できるように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約を結ぶ際は不安や疑問を聞き取り、懇切丁寧に説明し、理解や承諾を得たうえで契約をして頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様面会時など意見や要望等の聞き取りをおこなったり、運営推進会議の委員にご家族代表でメンバーに入ってもらい、ご意見、要望等を書面で頂き運営に反映している。 | 職員は、日ごろの利用者との会話のなかから、意見や要望を聞きとっている。家族等の来訪時には、本人の様子を伝え、意見を引き出すよう努めている。把握した意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常の業務の中や休憩時間においても意見を発する事ができやすい環境であり、随時ワーカー会を開き職員の意見や提案を取り入れ実施している。 | 管理者は、日ごろの会話のなかで職員の意見や提案を引き出している。ワーカー会議の際にも意見等を聞く機会を設けている。月1回、代表者の来訪があり、職員が直接、意見等を伝えることができる。把握した意見等は、法人の会議で話しあうなどして、運営面に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 就業規則を抜本的に見直しを行うと共に人事考課規定を取り入れ職員の資質向上及び働きやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修にはコロナの影響で参加ができないこともあったが、事業所内で月1回スキルアップ研修と介護福祉士や介護支援専門員試験を受ける職員がいる場合は勉強会を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により、相互評価や運営推進会議で交流する機会はなかったが、少しずつ同業者と交流する機会をつくりたいと思っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 馴染みのない環境において孤独感から不安に至らないように初回アプローチを重要とし安心して頂き信頼関係の構築に努め要望等を自発的に発する事が出来る事で安心を確保できるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居申し込み時や決定時にご家族様と密に連携を図り気軽に相談や要望等と言えるような雰囲気の関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 要望されていることに対し必要なサービスを提案し1階のデイサービスとの交流や外部交流も含めた支援の対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家族のような関係を築きお互いが支え合いながら孤独を感じることなく安心して穏やかな生活が送れるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様が面会に来た際に本人との関係を伺いつつ家族の意見や思いも傾聴し些細なことも報告や相談をしながら職員と家族とともに本人を支えているといった意識ができています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方が面会に来られた際にはゆっくりと対話ができるような雰囲気づくりに配慮している。 | 事業所では、感染症の流行下においても、利用者一人ひとりの友人や知人が来訪した際に、話をすることができるよう支援し、馴染みの関係継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は日常生活において利用者同士の関係を把握しており、共同作業やレク、行事の際は職員もともに行い支え合うことで孤独や不安を感じることがないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されたご家族様から介護や福祉に関して相談等があれば真摯に対応させていただいている | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で本人の何気ない言葉や態度等を貴重な情報ととらえ可能な限り実現できるように支援している。また意志表示が困難な方もご家族様の情報や意向も踏まえできる限り本人本位に留意している。 | 事業所では、担当職員が主となって、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。職員は、利用者の表情の変化や仕草等から意向等を把握している。意思の表出が困難な利用者については、家族や関係者等から情報を得つつ、本人本位に検討している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の密な聞き取りなどの基本情報をもとに回想法から得た情報等やご家族からの情報や家族との話からその方を知る参考にし自分らしく暮らしていけるよう努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りや介護記録、日々の日常生活の言動行動の異常時に早期発見早期対応に努めている。またできないことよりできる事に重きを置いている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的カンファレンスや日々の申し送り等で得た情報を元々に本人、家族の意向、職員間でのケア方針等を元に担当者会議以外でも家族と密に連絡を取り、情報の共有を図り介護計画を作成している。 | 事業所では、利用者の意向をもとに、家族や職員、医療関係者等の意見を反映し、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、職員の気づきやアイデアを反映できるよう努めている。定期的な計画の見直しのほか、本人の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人ファイルを用意し食事水分摂取量、排泄状態、日常生活状況をなど記録している。業務日誌等で情報を共有、見直し支援に繋げている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の心身状態により通院、近隣散歩など柔軟に対応できるように努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 希望により、訪問理美容のサービスを利用している。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望に応じ往診以外にも通院が必要な場合は適切に医療が受けられるように支援している。家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添い医療が受けられるように支援している。 | 事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診支援は、職員が行い、家族等と状況を共有している。月2回、協力医による往診がある。医療機関や家族等と連携を図り、適切な医療の受診を支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職場内の看護師や週1回の訪問看護師に心身状態を報告している。検査結果や受診結果、薬の変更等も詳細に伝達しており連携が取れている。体調不良の際は対応等指示を受けたりしつつ適切な支援ができています。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院によるダメージを予防するためにご家族様や医師と相談し施設内で対応が可能な段階で退院している。入院中は医師、担当看護師等からも心身状態の情報を得るようにしている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人の状態を家族に説明し主治医と家族との話し合いの場を設けている。場合により、家族の意向も伝達している。両者に対し施設内での可能不可能を詳細に説明し、理解していただき連携が図れるように支援している。 | 事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、意向を確認している。本人の心身状況の変化に応じて、説明と意向確認を行っている。また、終末期や看取りに関する研修を行い、看取り支援の体制を整えている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 通常の身体状態から始まり病識の知識を得ての状態観察力の向上、緊急時の早期発見早期対応等のマニュアルをもとに社内研修など定期的実施している。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署に防災訓練計画書を提出しそれに基づき地震による津波、火災、夜間を想定した避難誘導訓練など年3回デイサービスと合同で防災訓練を行っている。 | 事業所では、年3回、日中と夜間の火災や地震、津波を想定した避難訓練を開催している。起震車での体験を行ったり、津波の避難場所への避難訓練を行ったりして、実践的に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| | | | | | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 会話しやすいように地元の言葉で話しかけたり自身の意思で決定しやすいように言葉かけに留意している。 | | 職員は、利用者のその日・その時の気持ちを本人本位に考え、支援に努めている。あからさまな支援やプライバシーを損ねる声かけにならないよう注意している。事業所では、プライバシー保護に関する研修等を開催し、職員間の意識向上に繋げている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 希望を聴取したり思いが伝えにくい方に対しては複数の案をだして選んでいただけるように努めている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間、入浴日等はある程度決めているが基本は本人の意思を尊重しているのでご入居様がマイペースで穏やかに過ごせるように支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類の選別も職員と共に選んだり、起床時はモーニングケアを行い、入浴後は保湿クリームなどを塗布し身体から美容に心がけている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々に応じて食事の準備や後片付け等、行って頂いている。食事意欲がわくような形態、栄養バランスにも留意している。また、季節に応じた花見弁当やクリスマス食、おせち料理など提供し、喜ばれている | | 事業所では、利用者とともに食事の準備や片づけ等を行っている。食事は、利用者一人ひとりに応じた形態で提供し、栄養士に助言をもらっている。季節に応じた行事食を提供したり、月1回、おやつづくりを行ったりして、食の楽しみややりがいに繋げている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分摂取量を記録し1日に必要な摂取量が把握できるようにしている。本人の嗜好に合わせた物に提供している。個人の身体状況に応じた食事形態にしている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床、毎食後は必ず口腔ケアや義歯消毒を実施しており個々に応じた介護等の支援を行っている。月に4回歯科衛生士によるブラッシングの実施と口腔内の状態報告により異常時の早期発見早期対応が図れている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | | |
|----|------|---|---|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | | |
| | | | | | 次のステップに向けて期待したい内容 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご入居者様9名中5名が歩行困難で車いすを使用しているが、寝たきりの方1名を除き4名の方は日中はオシメを外し、リハビリパンツを着用しトイレ誘導を行っている。 | | 職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや生活リズムを考慮し、支援に努めている。日中は、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブルトイレ等を活用しつつ、自立に向けて支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防の対策として運動、食事水分に留意している。またそれでも排泄がない場合は看護師や主治医に相談の上、薬剤療法に繋げている。 | | / | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週間入浴予定表を作成し週3回は入浴しているが、あくまでご入居者様の心身状態に応じた柔軟な対応を基本としている。入浴の際には入浴剤を使用したり、楽しい入浴になるように努めている。 | | 事業所では、週3回、入浴できるよう支援している。車イスの利用者も、浴槽につかることができるよう職員2人で支援している。入浴を拒む利用者については、タイミングや声かけの工夫で、無理強いのことなく、入浴を支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自室で休息して頂いたり、ユニットホールのソファで居眠りするなど個々に応じた対応で過ごして頂いている。 | | / | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診記録、薬剤情報をもとに心身状況や副作用を理解し状態の変化に十分に注意し職員間で把握できるように努めている。薬局より薬の説明等も毎回受けており服薬状態に応じた錠剤、粉末等対応している。 | | / | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 意見や希望を聴取し個々に応じた役割や趣味、嗜好品等で楽しく生活が送れるように支援している。 | | / | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍の為、外出や外泊はできなかったが散歩やお花見、秋の行楽シーズンには少しでも外出気分を味わって頂けるように行楽弁当などを提供した。 | | 事業所では、日ごろからベランダに出て景色を眺めたり、敷地内の散歩をしたりして、外気に触れる機会を設けている。春には花見を計画するなど、感染症の流行下においても、可能な限り外出できるよう工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、金銭管理を自身で行える方がいないが1階の自動販売機で事務所管理の預かり金から好きなジュースを選んで購入して頂くなどの支援をおこなっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 認知症重度で手紙を書くことはできないが、電話は掛けたり掛かってきたりしておりその都度取次等の支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有スペースは動線上に障害物がないように物品の整理整頓をしている。ホールの窓から海や貨物船が通るのが見え景色もいいのでなるべくカーテンを開けるなど工夫するとともに、家庭的な雰囲気づくりを心がけている。 | 共用空間は、大きな窓から日光が差し込み、明るい。利用者とともに作成した季節の作品を飾りつけ、季節感やあたたかみのある空間づくりを行っている。、利用者が動きやすく、くつろぐことができるよう机や椅子、ソファ等の配置を考慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースでは温かい雰囲気が出るように作品等の展示や談話できるスペースの確保や個別にくつろげるスペースを確保している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時は本人が愛用しているものを持参していただけるようお願いをしている。個室である為、整理整頓に心がけ動線上に障害物がないように配慮し転倒事故の予防に努めている。 | 居室には、利用者の使い慣れた家具や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。担当職員は、利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう整理整頓を行っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々に応じたできる事、解ることを把握して少しでも自立した生活ができるように工夫し事故にいたらないように配慮している。 | | |